AHALab × ZimaBlueAI

小さな気づかいから、初めての率直な感想へ｜教員用ガイド

この授業の使い方

Shiguang Huaxiaを例に、AI × PBLの取り組み方を学ぶ授業です。自分が気にかける人や場面から出発し、必要なことを聞き、これまでの経験とAIを使って試し、実際の反応から次の一歩を考えます。アプリは試用段階で、高齢期の暮らしを扱う講座もまだ実施されていません。過程と選択を共有する事例であり、検証済みの成功経験としては扱いません。

大学生はそれぞれ違う場所で、主にオンラインで自習します。主な入口はstudy.htmlで、五つの部分、17の学習ステップに分かれています。各ステップに説明、課題、自分で確かめる問いがあります。目安は約60分で、何回かに分けてもかまいません。教員は事前に決めたオンラインの連絡方法で助言します。固定のペアや、教員が常時接続していることは前提にしません。

オンライン会議で教える場合はclassroom.htmlを使えます。17ページ、60分の説明と活動の流れを保ち、書く時間は静かに過ごしてよく、共有は自由です。中等教育前期の学習者は一人でカードを描いても、希望する仲間と互いに試してもかまいません。外出や知らない人への連絡には、大人の支援を求めます。

教材にはアプリのソースコード、インストールファイル、実際の設定、私的なやり取りを含めません。事例は匿名で、特定の個人は登場しません。図の場面はAIで生成したもので、実際の授業や試用の現場ではありません。AHALabのロゴは提供された原図を使っています。

学習者に持ち帰ってほしいこと

中心となる問いは、自分が気にかけることを、相手が試してみたいと思え、自分も責任を持てる小さな一歩にどう変えるか、です。

学習後は、具体的な相手と場面を書き、観察、推測、方法を分けられることを目指します。一つの選択から大切にしたいものを説明し、範囲と確認方法を決めてAIに依頼し、一つの反応が何を示すのか考え、48時間以内に始められる行動を決めます。

製品の考え方や軸は、選択に表れます。誰を気にかけ、何を守り、どんな証拠があれば考えを変えるのか。「温かい」「魂がある」と書くだけでは、次に何をするかは決められません。

今の状態を理解する

今見えているのは、発言や提出が少ないこと、難しさを話す人も、まだ取り組むことを選んでいない人もいることです。題目が合わない、課題が大きすぎる、知識や資源が足りない、時間の都合、評価への不安、話す前に書く方が落ち着く、などの理由が考えられます。まず具体的な条件を尋ね、グループチャットでの発言量から人格、好奇心、心理状態を推測しません。

教員が気にかけていること	観察できる問いに変える	学習者への支え
問題に気づいた後、さらに尋ねていない	一つの場面と、答えが分からない問いを二つ書けますか	最近の具体的な経験から尋ねます
問題を、必要なことの理解につなげられていない	観察、推測、機能を分けられますか	行動カードAで、必要としていることの仮説を書き直します
アイデアがまだ広がっていない	長期的な願いと、今週の小さな一歩を両方書けますか	願いは相手にとっての価値を考え、最初の一歩は検証の費用を小さくします
なかなか始められない	行動する時間、条件、終わったと分かる基準がありますか	始める合図を決め、妨げを減らし、助けを求める方法も用意します
うまくいかなかった後、次の一歩がない	起きたことを説明し、調整するか止めるかの根拠を示せますか	証拠と約束を確かめ、今回はどこでつまずいたかを見ます。人そのものを決めつけません

罰、恥をかかせること、支払いの強制、私事の公開によって、失敗の代償を作りません。実際の責任には、約束したものを届ける、遅れる前に伝える、情報を守る、参加してくれた人に返事をすることが含まれます。合わない方向をやめるのも、根拠があればよい判断です。

始める前に

1. 匿名の事例と証拠のページを読み、起きたこと、仮説、まだ確かめていないことを分けます。WeChatの記事は授業後に希望すれば読めます。授業でも自習でも、家庭の経験を共有するよう求めません。

2. まずstudy.htmlを開くよう伝えます。紙と筆記具でも取り組めます。読んだ印は本人のブラウザーにだけ記録され、教員に進捗が届くことも、課題を実行した証拠になることもありません。

3. 助けを求める方法と、おおよその返信予定を決めます。学習者は、共有してよいと思う、個人情報を含まない要約だけを送ります。常時の応答は求めません。ページが自動で提出や集計をすることもありません。

4. AIを実演する場合は、架空の場面を用意します。一時的にAIが使えなければ、流れを描く、確認方法を書く、紙のカードで試すことから進めます。道具を待って止まる必要はありません。

5. その場で知らない道具をインストールせず、アプリのリバースエンジニアリングをせず、本物のキーを入力しません。教材はオフラインで読めますが、WeChatの記事や外部の出典には通信が必要です。

五つの部分で進める自習の流れ

部分	学習ステップ	時間の目安	残すもの
関心から始める	1〜5	16分	一つの場面と、必要としていることの仮説。推測には印をつけます
まず考えて、それから道具を使う	6〜8	10分	一つの取捨選択、使えるもの二つ、AIへの依頼
試してみないと分からない	9〜11	11分	最小限の確認を一つ、データについての責任を一つ
最初のフィードバックを理解する	12〜15	13分	試用への誘い、反応の分類、始め方と再開の準備
次の一歩を踏み出す	16〜17	10分	48時間以内の行動カードと、7日後に振り返る時刻

一人で学ぶ場合は、先に取り組み、その後で自分で確かめる問いを開きます。仲間に見てもらってもよいですが、相手がいなくても完了できます。紙での練習は「練習」と明記し、本物の利用者からの反応として書いてはいけません。

オンライン会議での60分間の進め方

時間	共有画面のページ	進め方	学習者が残すもの
00—05	1〜2	静かに題目を選び、事例の範囲を説明します	自分で選んだ場面を一つ

05—11	3〜4	会話を気にかけることから最小限の体験へ。問題、必要なこと、方法を分けます	書き直した文を一つ
11—16	5	活動1。各自で仮説を書き、自分で確認するか、希望すれば共有します	行動カードA
16—22	6〜7	取捨選択と、これまでの経験をどう使うかを説明します	原則を一つ、使えるものを二つ
22—29	8〜9	AIへの依頼、機器での確認、小さなつまずき	確認結果の判断を一つ
29—33	10	活動2。最小限の確認を一つ書きます	行動カードB
33—37	11	保存、権限、費用、試用版のリスク	責任と範囲を一つ
37—44	12〜13	誘う、インストールする、課題を試す、後で尋ねる。反応を分けて考えます	反応の分類を一つ
44—47	14	活動3。分析や模倣の道具をどう使うか考えます	利用許可と検証についての判断を一つ
47—50	15	自律を支える始め方と再開、失敗後の責任	つまずいたときの準備を一つ
50—57	16	活動4。各自で行動カードを書き、自分で確認して直します	行動カードC
57—60	17	三つの文と、振り返る時刻を残します	行動、時間、証拠

活動1、2、3、4と最後の記入で、合計22分です。すべてを事例の説明に使わないでください。会議ではカメラの使用や私的な経験の発表を求めず、文字でも口頭でも参加できます。

四つの活動での助言の仕方

活動1｜問題から、必要なことへ

まず起きたことを書き、誰が、いつ、何に困り、どう変わってほしいかで書き直します。証拠がない部分を一つ囲み、「どんな証拠があれば考えを変えるか」を加えます。自習では自分で確認し、会議では希望すれば一つ共有します。

授業用の例：「高齢の方には会話が足りない」は広すぎます。たとえば、長く文字を入力したくない語り手が、何か話したくなったとき、文章にまとめる前に話し始め、休むタイミングや

共有を自分で決めたい、という仮説にできます。使いたいか、共有したいかは、別々に尋ねる必要があります。

題目がなければ、「物を貸し借りすると返し忘れやすい」という授業用の架空の場面を使います。今の流れを描き、最近の経験を尋ねます。「とても必要ですよね」と答えを誘導しません。

事例に興味がないと言われたら、「20分かけて知ってみたい別の場面を選び、実際に困りごとがあるか見てみましょう」と応じられます。Shiguang Huaxiaを好きになることも、本人が利用者になることも求めません。

活動2｜AIは直したと言うのに、機器から音が出ない

期待した結果と実際の結果を書き、分かっていること、未知のこと、最小限の確認を挙げます。たとえば架空の文章を単独で音声再生し、再生が始まったか、エラーが返ったかを記録して、次にどこを調べるか決めます。音量、再生の開始、通信、サービスのエラーは、いずれも原因の候補にすぎません。

教員は「もう一度『直して』と言うと、新しい証拠は何が得られますか」と尋ねられます。再現手順、期待と実際の違い、一つ変更した後の再確認を加えられれば、この練習は完了です。プラットフォームの構文を試験するものではありません。

活動3｜道具が模倣できるなら、自分は何を決めるのか

四つの行動から一つ選んで考えます。公開された操作を観察して自分の要件を書く。ライセンスに従って部品を再利用する。許可なく相手の認証情報や顧客データを取り出す。AIで複製した後、試さずに使えると主張する。

対象への許可、使える範囲、出典、自分で確かめる結果を書きます。REAとreplica-skillは資料を読むだけとし、インストールや実行はしません。道具のライセンスは対象の内容への利用許可ではなく、リポジトリーの説明も実測での成功を意味しません。

活動4｜次の一歩を行う時刻を決める

相手と仮説に2分、行動と証拠に2分、自分での確認に2分、修正に1分を使います。仲間がいれば、希望に応じて見せ合えます。今回は使う欄を優先し、すべての表を埋めるよう求めません。

授業用の例：「明日の夕食後、20分で物の貸し借り用の紙カードを二つ描き、希望する仲間に一度試してもらいます。記録するのはつまずいた箇所だけです。相手と予定が合わなければ、まず練習して、練習だったと正しく記します。」

まだ「プラットフォームを作る」「調べてみる」「みんなに満足してもらう」となっていたら、さらに小さくします。一度の観察だけを約束してもかまいません。相手が断ったら尊重し、別の確かめ方を考えます。

自己理解、自律、第一原理思考

長所とつまずきの観察カードは、授業前に任意で行う5〜8分の振り返りです。心理測定として検証されておらず、採点もタイプ分けもしません。DISC、正式なMBTI、16Personalitiesの違いと利用範囲は、自己理解についての説明ページにあります。商用の設問を使った検査は行わず、心理的な結果を集めず、タイプで役割や能力を判断しません。

第一原理思考は第4、8ページで練習します。目標、事実、実際の制約、未確認の仮説を分け、小さなテストで案を比較します。自律は第15、16ページで、始める合図、妨げを一つ減らすこと、中断後の戻り方を考えます。どちらも思考と行動を支える方法であり、成功を保証するものではありません。

成功談の資料と確認できるインタビューの一節は、方法のページに任意の発展学習として置き、本編の時間を削りません。未確認の正確な生活時間、財産の数値、激しい会話は授業の事実として扱わず、夜更かしや連続した実施記録で学習者を評価しません。

学び方が違っても、証拠を確かめる基準は同じです

項目	中学の探究	それぞれの場所から学ぶ大学生
出発点	自分が関われる学校、暮らし、興味のある場面	各自が関われる相手と場面
最初の一歩	紙のカード、観察、人による実演、小さなAIの試作品	技術を使わない試作品でもかまいません。予算と協力者の募り方を加えます
話し合い	一人で完了しても、希望する仲間と試してもかまいません	自分で読み、確かめ、必要なときにオンラインで相談します
責任	小さな行動を一つ。必要に応じて大人の支援を受けます	行動、時間、証拠、費用の上限、助けを求める方法

7日後	観察か試用を一度行い、修正を一つ残します	別々の相手二人から反応を得ることを目指します。足りなければ、そのまま記します
長期的な方向	後で広げてもよく、起業を約束する必要はありません	1年の展望は持ちながら、毎週、証拠に基づいて次を決めます

民族、地域、学歴から、なぜ行動するか、しないかを推測しません。目の前の課題、使える資源、これまでの経験を見て、どんな支えが必要か話し合います。

成果物の見方

主な学習目標は応用、それを支える目標は分析です。各項目0〜2点、合計10点で、今回の成果物と証拠だけを見ます。人格は評価しません。

項目	0点	1点	2点
相手と場面	漠然としている	具体的だが、すべて推測である	観察と仮説を分けている
大切にすることと取捨選択	機能を並べているだけである	原則はあるが、選択に結びついていない	原則から、一つの取捨選択を説明できる
確かめ方の設計	見せるだけになっている	課題はあるが、判断の基準が曖昧である	小さな課題と、判断する手がかりがある
行動の予定	願いだけになっている	行動はあるが、時刻や証拠が曖昧である	行動、時間、証拠、つまずいたときの方法がそろっている
相手への責任	考慮していない	口頭で注意するだけである	同意、必要最小限の記録、アクセス範囲を説明している

6点は、優先して助言を加える目安にできますが、事業として検証できたことを意味しません。点が低ければ足りない箇所に戻り、能力のレッテルを貼りません。その後は、始めたか、どんな証拠を得たか、どう修正したかを見ます。読了の印も、一度の感情的な反応も、長期的な変化を示す証拠にはなりません。

オンラインでの報告は簡単な形にする

学習者は「知りたいことは……」「試したのは……」「見えたのは……」「今は……でつまずいていて、……を相談したい」と手動で送れます。私的なチャット、身元が分かる情報、実際の録音は添付しません。ページが行動カード、振り返りカード、閲覧の進み具合を教員へ自動送信することはありません。

教員は、まず具体的な問いに一つ答え、次の小さな行動を一つ提案します。オンライン会議では、実際のつまずきと次の検証を優先し、ページを逐語的に読み上げる必要はありません。返信の予定は双方で決め、即答を求めません。

図文、画面共有、印刷

サイト全体で三つの背景画像とAHALabのロゴを使っています。場面はAIで生成した授業用のビジュアルで、実際の授業風景ではありません。19の図解は関係を示し、架空の統計は含みません。背景と透かしは読む邪魔にならないように抑え、スマートフォンでは図を押して拡大できます。

会議用の画面はページごとに進められ、説明の要点は必要に応じて開けます。Nキーで講者向けのメモを表示します。スクリプトなしでも順に読めます。印刷では図解とブランド表示を残し、大きな装飾背景は除きます。自習版、行動カード、振り返りカードはオフラインで読めます。外部の出典には通信が必要です。

図解を示すときの操作

初めて開くページでは、図解が関係に沿って一度展開します。必要なら一時停止し、Rで再生し直すか、動きを切って説明できます。Sで講者ウィンドウを開くと、話す内容の案、注意点、次のページ、このページの残り時間を見られます。オンライン会議では主画面だけを共有します。別ウィンドウが開かなければ、Nでページ内のメモを見られます。

Fで全画面表示を求め、Home / Endで最初と最後へ移動します。システムで動きを減らす設定をしていれば静止図を表示し、印刷前も最後の状態を表示します。図を読む順序は関係の理解を助けるもので、証拠の強さ、利用者数、プロジェクトの進み具合を示しません。

AHALab × ZimaBlueAI

aha-lab.ai

AI 時代の物理的な意味を取り戻す

AHALab × ZimaBlueAI · 公開学習教材 · 授業での試行は未実施 · 匿名化した学習事例。アプリのソースコードは含みません